

様式3 令和5年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	どの子もみんな一分の一 (一人一人の児童に最適な支援をする学校の実現) ～「上級生を見習おう」と言える学校づくり～	学校名	新座市立新開小学校
		実施日	令和6年1月16日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B C を記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
①学校は働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。		倫理確立委員会で話し合い、1人1人の認識を高めた。どの会議にもタイムキーパーをつけること、校務システムの連絡掲示板を活用して職員集会の回数を減らしたこと、パソコンでの教材の共有化が進むようフォルダの整理等を行った。4月は時間外在校時間が平均44時間だったのが、11月には29時間と削減になった。	S	働き方改革の取組手法について、ICTの活用等具体的に示していただいた。様々な取組と努力が、時間外在校時間の約3割減につながり、大きな効果を生み出すことができたものと判断し、大いに評価できるものである。

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
②学校は、児童が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	A	校内研究でルーブリック評価を全教員が取り組むことにより、指導と評価の一体化が図られている。ルーブリック評価を示すことにより、児童の意欲や理解が高まっていることを感じる。	S	児童の意欲や理解が高まっているというこの取組については、評価できる。要望として、誰一人取りこぼすことなく全員が理解し、目標に向かって進められるよう、引き続き御指導願いたい。
③学校は、ICTを有効に活用し、発達段階や学力・能力に即した学習指導を行っている。	A	校内研究でICTの活用にも取り組んできたことにより、ICTの操作の技術は着実に付いてきている。アンケート調査によると、低学年でもクロムブックを活用することに意欲的な傾向が見られ、苦手意識をもっている児童は少ない。また「meetに参加すること」、「文字入力」の項目が伸びている。	A	児童のICT技術は身につけてきているとの自己評価であるが、児童へのアンケート結果(Chromebook)を見ると危うさを感じる。また、ICT技術の定着が必ずしも学力向上につながっているかどうかについては疑問が残るところである。

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
④学校は、児童が友達や教職員・来校者に進んで挨拶をする環境を醸成している。	A	年間生活目標の一つに「元気よくあいさつをしよう」を掲げ取り組んできた。生活委員会の児童や職員によるあいさつ運動も行っている。結果、担任や学級の友人には挨拶できる児童が増えてきた。しかし、まだ、あいさつができない児童もいる。特に来校者や地域の方にしづらい傾向がある。家庭や地域も同じ認識で挨拶を行える環境を今後も作っていききたい。	A	年間目標に掲げて取り組んでいる一方、無言清掃や防犯面の取組と相反することもあり、児童には戸惑いも見られるのではないかと感じる。また、教職員も徹底できているとは言えない状況にあると感じる。なお、挨拶は、まずは家庭での教育が基本であり、各家庭の努力に期待したい。
⑤学校は、教職員自らが手本となり、児童に対して規範意識を高める指導を行っている。	A	チャイムで授業を始めること、名札の着用、あいさつなど、生徒指導部会で確認したことが、共通認識をもって守られている。保護者からご指摘があった場合はすぐに共有し、改善を図っている。	A	全教職員自らが手本になっているとは言えないと感じる。教職員から児童への呼び捨ては、いかがなものか。親しみの勘違いではないか。人権尊重し、「さん付け」を徹底していただきたい。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
⑥学校は、児童が意欲的に運動に親しんだり、食に関する意識を高めたりする取組に努め、計画的に健康教育を推進している。	S	朝の縄跳びタイムを年間継続して取り組んでいる。食に関しては4年生が栄養士を招いての和食の学習を4時間行ったり、朝会での校長講話、学校便りでの啓発、栄養士による毎日の給食時の巡回等で残菜の量が減っている。	S	ヒトの基盤である健康教育は大変重要であり、運動と食に関する継続的な取組は評価できる。「はし」の使い方については、低年齢時の方が身につけやすいと感じるため、できれば、1年生が小学校に慣れてきた2学期頃をお願いしたく、要望しておきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
⑦学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	S	教育活動について、即時にホームページで紹介している。各学年、担任もたよりを計画的に発行し児童の様子を定期的に情報提供している。また、研究発表に関してもホームページに研究紀要を掲載し、分科会で出された質問についてもホームページ上で回答している。	S	教育活動について、学校だより、ホームページ等により定期的に、または迅速に保護者へ情報提供していることで、保護者は学校の様子が理解しやすい状況になっており、評価できるものである。